

# ボランティア活動で 地域と学生の可能性を広げる

地域のボランティア活動に学生が参加する。愛知学院大学は、こうした実践を名古屋市と連携し、主にキャンパス周辺の北区の方々と行っています。どのような思いで、この事業を行っているのでしょうか？

## 質問1. 名古屋市と連携したボランティア実践はどんな事業ですか？

北区で実施されているボランティア活動に学生が主体性を持って参加することを軸とした事業です。北区の地域コミュニティに入り込み、体験と座学を交えた講義を半年にわたって行います。2023年度は、運動会の運営や防犯の啓発などを体験しました。



## 質問2. ボランティア実践において大切にしていることはなんですか？

難しく考えずに、まずは参加してもらうことです。学生には初回から座学ではなくボランティア活動に参加してもらっています。活動への参加を通して、地域の人の声や自分たちの身の回りの出来事を実際に知ることができます。そこから地域の課題にも関心を持ってもらいたいです。



## 質問3. ボランティア活動を通して、学生にどんな変化がありましたか？

学生は普段、幅広い年齢層の人たちと会話することは少ないのですが、自ら多世代の人と気さくにやり取りする場面が増えていました。一緒に参加した学生さんからも、ボランティア活動を通じた地域の人との交流が魅力的で、学びが多かったと聞いています。

## 質問4. 実践を踏まえて、どのような社会人になってほしいですか？

「地域で活躍する人材」になってほしいです。この先、仕事と家庭以外に労力を費やすことは容易ではないでしょう。それでも地域のために行動する意味を見出し、未来を担える人たちが増えれば地域は豊かになる。このような人材育成も社会連携の大きな役割だと思います。

## 取材の感想...

今回の取材では、先生だけでなく授業に参加した学生さんにもお話を聞き、ボランティア実践の魅力を学校と学生のふたつの視点から知ることができました。このような活動が今後さらに広がっていか良いと思います。



### 愛知学院大学

70年の歴史を有する中部圏の伝統ある大学。10学部16学科と、短期大学部1学科、大学院9研究科に学生総数約11,000名が在籍。また、4キャンパスをもつ一大総合大学へと躍進を続ける。「行学一体」「報恩感謝」を基盤として、自分の可能性に挑戦し、協働の場で主体的に活躍できる人材の育成を目標とする。